



Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2016 年度 NO.1

目次

- ・ 第 17 回大会（東京）を開催して
- ・ 第 18 回大会（北海道）開催に向けて
- ・ 理事会報告
- ・ 2016 年度総会報告
- ・ 2015 年度事業報告および決算報告
- ・ 2016 年度事業計画および予算
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 広報委員会報告
- ・ 企画研究 WG 報告とセミナーのご案内
- ・ 2016 年度高良記念研究助成
- ・ 楨本記念賞 WG 報告
- ・ 本部支部連絡会報告
- ・ 支部活動報告
(北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部)
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 会員情報

第 17 回大会（東京）を開催して

9 月 3 日（土）・4 日（日）に目白大学・目白大学短期大学部新宿キャンパスで開催いたしました日本インターンシップ学会第 17 回大会には、多くの方々にご出席いただき、誠にありがとうございました。

今回のテーマは「インターンシップの多様化とその可能性」といたしました。近年、インターンシップに注目が集まっており、そのあり方について議論される機会も多々見られるようになりました。その背景を考えると、大学側に社会人として必要な能力を有する人材の育成が強く要請されていること、また企業側にとっては人材確保のみならずミスマッチを減らし自社についてより深く知ってもらう機会としての両側面があるように考えます。いずれにしても、インターンシップは単なる会社見学の場ではなく、学生が実際に社会に出て実務経験を積むことにより、「学修と社会を結びつける」貴重な機会として捉えるべきだと考えます。今回はそのような趣旨のもと、基調講演では、東京都オリンピック・パラリンピック準備局担当部長の田中彰氏にご登壇いただき、東京都における都市ボランティアへの取組みの現状とこれからについてご講演いただきました。その後の「社会連携としてのインターンシップと人材育成」と題したシンポジウムでは、八芳園、フェスティバル／トーキョー、西武信用金庫、首都圏インターンシップ推進機構における取組み事例をご紹介いただきました。シンポジウムを通じて、多様化しているインターンシップの現状・課題、そして今後の可能性を共有できる機会になったのではないかと感じております。その後の特別講演では、経済産業省経済産業政策局産業人材政策室の橋本賢二氏にご登壇いただき、地域連携組織の現状を共有しつつ、我々学会の今後の方向性についても多くの刺激を与えていただきました。

また、夜の懇親会の前には、本学メディア表現学科の学生による 90 台の Mac を使った映像のデモンストレーションを行いました。ご覧いただいた皆様から歓声が上

がる一幕もあり、何日も前から準備していた学生たちにとって大変励みになったと思います。なお、懇親会には 50 名以上の会員・非会員の皆様にご参加いただきました。昼間とはまた異なる雰囲気の中で、有意義な情報交換の場となっていれば幸いです。

2 日目の朝は、一昨年度の高良記念研究助成対象者である名城大学の五十畑会員よりフランスのインターンシップについてご報告いただきました。その後 5 会場に分かれて、計 28 件の研究発表が行われました。今回は、教育効果、海外の事例、企業から見たインターンシップ、地域連携組織など多様なテーマの発表が行われ、各々の会場で活発な質疑応答が行われました。まさに研究と実践の往還の場となったように感じております。

2 日間を通じて、大変盛りだくさんのプログラムとなりましたが、講演・シンポジウム、また会員のみなさまの日頃の研究や活動の報告を基に、皆様の経験、情報、知識を共有化する場として、有益な機会となっていましたら幸いです。

今回は、文部科学省、経済産業省、厚生労働省、東京都からのご後援をいただいた他、日本インターンシップ学会本部、関東支部、また多くの方々のご支援とご協力により、大会を開催することができました。極めて少人数の実行委員と学生スタッフ約 30 名で準備してきた大会だったため、何かと不手際があったかと思えます。ですが、当日、学生スタッフに励ましやねぎらいのお声がけをいただくことも多く、大変ありがたく思っております。この場をお借りいたしまして、ご出席並びにご支援頂きました皆様方に、実行委員会より心より御礼申し上げます。

最後に、次年度の札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部での第 18 回大会が一層盛会になりますことを心より祈念しております。

(第 17 回大会実行委員長 牛山佳菜代・目白大学)

第 18 回大会（北海道）開催に向けて

第 17 回大会の懇親会にて、次回大会開催地として北海道支部・亀野支部長に引き続きご挨拶をいたしました、札幌国際大学短期大学部の小林と申します。当時はまだ正式に開催のご案内ができませんでしたが、この場を借りましてご報告をさせていただきます。

2017 年度・第 18 回大会は、北海道札幌市にあります札幌国際大学／札幌国際大学短期大学部にて開催させていただくことになりました。北海道での開催は、2013 年度・第 14 回大会の北海道武蔵女子短期大学での開催以来となります。大会委員長という大役を拝命し、責任の重さを感じますとともに、身の引き締まる思いでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、大会開催における具体的な内容ですが、北海道支部会員を中心に実行委員会を組織して、検討を進めております。大会日程は 2017 年 9 月上旬の予定です。テーマ・プログラム等については、まだ構想を固めている段階ですので、もう少しお時間をいただきたく存じます。詳しい情報は決定次第、Web サイト等で公開していく予定です。

ここで、開催校となる札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部について簡単に紹介をさせていただきます。本学は 1969 年に「札幌静修短期大学」として、北海道・札幌の女子人材育成を担うことを目的に開学しました。1993 年には「静修女子大学」として四年制大学を設立、また 1997 年には現名称へと改称し、大学 3 学部 6 学科、短期大学部 2 学科、大学院 3 研究科の体制で教育・研究活動を展開しております。開学当初より「自由・自省・自立」を建学の精神として、地域社会への発展に目を向け、社会貢献を志す人材の育成を行っております。実務教育・キャリア教育に注力しており、企業・自治体との連携協定を締結し産学一体となった教育プログラムの開発を進めております。インターンシップについては、60~70 程度の企業・団体にご協力いただき、全学横断的な授業として展開しております。地元中小企業が中心ですが、近年は学生の自己開拓により派遣先も広がっています。

本学は札幌市中心部から地下鉄とバスで 30 分、新千歳空港からバスで 50 分の場所にあります。近隣には札幌ドームや羊ヶ丘展望台などの観光地もあり、緑も多い空間です。なにより、まだ残暑といわれる 9 月上旬には、北海道は過ごしやすい気温になっております。ご参加いただいた皆さまにご満足いただけますよう、スタッフ一同努力して参ります。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

（第 18 回大会実行委員長 小林純・札幌国際大学短期大学部）

理事会報告

2015 年度第 5 回理事会（5 月 29 日 於：北海道大学）

(1)入退会申請について

入退会の申請について、新入会員 7 名（個人会員 6 名、学生会員 1 名）退会者 4 名（個人会員 3 名、学生会員 1 名）が承認された。なお、他学会が会員数減少気味のなか、会員数を増やすためにもコアな研究を充実させていく必要があるとの意見が出された。

(2)第 17 回大会について

第 17 回大会実行委員長 牛山理事より資料に基づき大会プログラム、シンポジウム、研究発表の申込み状況について説明があった。

(3)広報委員会

牛山副委員長よりニュースレター No.2 を作成中で、近日中に完成予定であることが報告された。

(4)年報編集委員会

亀野委員長より、年報第 19 号に 4 編の投稿があり、第 1 回編集委員会は、3 月 28 日（月）に開催されたこと、第 2 回編集委員会は、6 月 5 日（日）に筑波大学にて開催予定であることが報告された。

(5)企画研究 WG

安孫子委員長より、8 月 10 日（水）13:30 からキャンパスプラザ京都において、セミナー「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」（第 3 弾）を開催する予定であること、また九州支部においても 11 月の研究会でワークショップを開催する予定であることが報告された。

(6)高良記念研究助成

岡本委員長より第 10 回高良記念研究助成（6 月 10 日締切）の応募状況の報告があった。

(7)熊本地震に伴う年会費の免除について

熊本地震に伴う年会費の免除を行うことの提案があり、次の理事会までに、方向性を提案することで了承された。

(8)事務局より

岡本事務局長より、資料に基づき会員管理を（株）ガリレオに委託する際の手順として ID・パスワードを会員個人に連絡する旨の報告があった。

2016 年度第 1 回理事会（8 月 11 日 於：キャンパスプラザ京都）

(1)入退会申請について

入退会の申請について、新入会員 4 名、退会者：個人 4 名、法人 3 団体についてすべて承認された。

(2)2015 年度事業報告（案）について

岡本事務局長より資料に基づき事業の説明があり、了承された。

(3)2015 年度決算（案）について

事務局長より、資料に基づき決算報告がなされ、8 月上旬に監事による監査を受けたことが報告され、決算は了承された。

(4)2016 年度事業（案）および予算（案）について

事務局長より、2016年度の事業案及び予算案の説明があり、両者とも了承された。

(5) 第17回大会について

牛山大会実行委員長より、資料に基づき大会に向けての最終準備状況の報告がなされた。発表申し込みが28件あることや、後援依頼の状況の説明がなされた。

(6) 高良記念研究助成について

2016年度では5名の応募があり、審査委員会で検討し2名を対象とすることが提案され、理事会で了承された。中間報告会(各支部)等、フォローが必要との意見もあり、今後若手の研究者をどのように育てていくか、また年報への論文投稿を促していくかが課題であることなどの意見が出された。

2016年度第2回理事会(9月3日 於：目白大学・目白短期大学部新宿キャンパス)

(1) 入退会申請について

入退会の申請について、新入会員1名が承認された。

(2) 第17回大会について

牛山大会実行委員長より、参加者が120名、研究発表は28件あることが報告された。

(3) 総会議案について

事務局長より総会議案について、提案があり原案通り承認された。

(4) 年報編集委員会

亀野委員長より、投稿規定の改正について前回提案されたが、まだ確定していない。理事の承認を得るために投稿規定改定の内容をメールで理事に配信し承認を得ることで了承された。

(5) 次期大会について

吉本会長より、来年の第18回全国大会は北海道で開催されることの報告があった。

※なお、各理事会で行われたその他の委員会・ワーキンググループ・各支部の詳細な報告につきましては、本NEWS LETTERの報告記事をご覧ください。

2016年度総会報告

2016年度の総会が9月3日(土)目白大学・目白大学短期大学部新宿キャンパスにおいて開催され、以下の報告と審議がなされました。

(1) 2015年度事業報告

岡本事務局長より、配布資料に基づき事業報告の説明があり、承認された。

(2) 2015年度決算報告及び監査報告

岡本事務局長より、資料に基づき決算の説明があり、その後稲永監事より監査報告がなされた。(1)・(2)の詳細につきましては「2015年度事業報告及び決算報告」を参照ください。

(3) 2016年度事業計画について

岡本事務局長より、資料に基づき事業計画の説明があり、承認された。

(4) 2016年度予算について

岡本事務局長より資料に基づき、一般会計予算案、特別会計予算案について説明があり、承認された。

(5) 高良記念研究助成について

岡本高良記念研究助成審査委員長より資料に基づき、助成採択の経緯が報告された。助成対象者2名(川上あき会員及び坂巻文彩会員)が承認され、授与式が行われた。

(6) 楨本記念賞WGについて

眞鍋委員長より、楨本記念賞運用方法について「秀逸なインターンシップに焦点を当てる」ことの説明があり、承認された。

(7) 第18回大会について

吉本会長より、次回の全国大会である第18回大会について北海道支部内で開催する旨の説明があり、承認された。続いて亀野北海道支部長より、北海道での開催について紹介があった。

(8) 熊本地震に伴う学会費減免措置に関する規定について

吉本会長より、2016年4月に発生した熊本地震に関する会費の減免措置に関して説明があり、承認された。

(事務局)

2015年度事業報告および決算報告

「2015年度総会報告」の通り、2015年度事業報告及び決算報告について、総会で下記の通り承認されました。

1. 2015年度事業期間

2015年7月1日～2016年6月30日

2. 事業の概要

2015年9月12～13日 第16回大会開催

(会場：近畿大学、東大阪キャンパス)

2015年12月 Newsletter No.1 発行

2015年11月『インターンシップ研究年報』18号発行

2016年6月 Newsletter No.2 発行

3. 総会

2015年9月6日(近畿大学 東大阪キャンパス)

4. 理事会

第1回理事会 2015年8月18日(キャンパスプラザ 京都)

第2回理事会 2015年9月12日(近畿大学東大阪キャンパス)

第3回理事会 2015年12月5日(九州大学箱崎キャンパス)

第4回理事会 2015年3月28日(九州大学東京オフィス)

第5回理事会 2015年5月29日(北海道大学)

5. 各支部活動

(1)北海道支部

2016年3月17日 2015年度第1回研究会（札幌国際大学経済センターキャンパス）

2016年5月29日 2015年度第2回研究会（北海道大学）

(2)関東支部

2015年10月3日 2015年度支部総会

2015年11月28日 2015年度第1回研究会（玉川大学）

2015年3月26日 2015年度第2回研究会
（大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション）

(3)関西支部

2015年12月4日 第10回研究会（キャンパスプラザ京都）

(4)九州支部

2015年12月4日 第15回研究会（福岡工業大学）

2016年6月4日 第16回研究大会（九州大学箱崎キャンパス）

6. その他

(1)「2015年度高良記念研究助成」実施

2015年度は応募が1件あったが助成該当者はなかった。

(2)榎本記念賞

第16回全国大会において「秀逸なるインターンシップ」が選定表彰された。

評価項目と評価基準は以下のとおりである。

①理念・教育目標：大学の理念と教育目標が合致している

②制度・組織：学校が制度として組織的に取り組んでいる

③内容・シラバス：内容が充実しており、そのことがシラバスから読み取れる

④実施担当者：熱心に取り組んでいる担当教職員がいる

⑤規模：科目として正規に位置づけられ、受講生の規模が適切である

⑥受入先との連携：協力度が高い受入先が確保されており、継続性がある

⑦醸成される力：専門能力または汎用能力が明らかに醸成されている

⑧受入先からの評価：学生の行動力等について高い評価を受けている

⑨受講生の評価：参加した学生から高い評価を受けている

(3)学会後援・協賛事業等

「学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 平成26年度文部科学省委託事業成果報告会」（2016年1月19日）を後援した。

（事務局）

2016年度事業計画および予算

「2015年度総会報告」の通り、2016年度事業計画及び予算について、総会にて下記の通り承認されました。

2016年度事業計画

1. 2016年度事業期間

2016年7月1日～2017年6月30日

2. 事業の概要

(1)第17回大会の開催（2016年9月3日（土）～4日（日）

目白大学・目白大学短期大学部新宿キャンパス）

(2)研究会の開催（各支部年2～3回程度）

(3)年報19号の刊行

(4)NEWS LWTTERの発行（年2回）

(5)「2016年度 高良記念研究助成」実施

(6)理事、会長選挙の実施

(7)会員名簿の作成

(8)論文作成に向けてのワークショップの開催

(9)その他

（事務局）

年報編集委員会報告

『インターンシップ研究年報』第19号について

『インターンシップ研究年報』第19号が完成いたしました。本号の「研究論文の部」（「論文」及び「研究ノート」）には4本の投稿がありました。編集委員に加えて、近接領域を研究しておられる3名の会員にもご協力をいただき、査読をおこないました。その結果、「論文」としての採択はありませんでしたが、1本を「研究ノート」として採択いたしました。また、「研究論文の部」に投稿があったもののうち、「資料」としての価値が高い1本については、投稿者の許可を得て、「資料」として収録いたしました。

今号も、「研究論文の部」のうち、「論文」としての採択がなかったことは大変残念ではありますが、これまでにないユニークな視点や方法論を用いた投稿もあり、今後の研究に期待するものも多かったのも事実です。査読結果は、採択・不採択にかかわらず、審査の際に出た様々な意見をすべて投稿者にフィードバックしていますので、不採択になった会員もぜひ再チャレンジしていただきたいと思っております。

前号には「研究論文の部」「資料の部」あわせて10本の投稿があり、結果として「研究ノート」2本、「資料」3本の計5本を掲載いたしました。つまり、掲載の確率は前号も今号も2分の1ということになります。これが高いのか低いのかという判断は難しいのですが、本年報に会員の多くの研究成果等を掲載するためには、一定数の投稿も必要となります。9月の全国大会で発表された方はぜひ投稿をお願いいたします。

また、年報編集委員会では、他の委員会やワーキンググループとも連携しながら、引き続き、投稿論文の質の

向上に向けた取り組みも進めております。

『インターンシップ研究年報』第20号への投稿のお願い
 並行して、『インターンシップ研究年報』第20号への投稿を募集いたします。本号から編集規程を若干修正し、以下の区分により投稿を募集しておりますので、投稿に当たっては、希望する区分を明記の上、投稿をお願いいたします。

- (1)「研究論文」
- ①「論文」(一定の研究成果をまとめたもの)
 - ②「研究ノート」(「論文」に準ずる研究成果をまとめたもの、もしくは研究の基礎となる情報をまとめたもの)
- (2)「資料等」
- ①「資料」(報告・資料等会員のさらなる研究・実践活

動に資するもの)

- ②「活動紹介」(実践活動を取りまとめたもの)
- ③「書評」
- ④「その他」

原稿は、電子メールにファイルを添付して以下のアドレスに送信して下さい。

- ・締切：2017年1月20日(金)(厳守)
- ・送信先：日本インターンシップ学会年報編集委員会
- ・E-mail: jsi-bec@js-internship.jp

なお、年報20号の研究論文等投稿規程は、第19号巻末及び学会ウェブサイトに掲載しています。「研究論文」「資料等」ともに、投稿規程を守っていない場合には、査読・掲載の対象から外すことがありますので、投稿規程をしっかり守って原稿を作成の上、投稿して下さい。
 (年報編集委員会委員長 亀野淳・北海道大学)

2015(平成27)年度 日本インターンシップ学会 収支計算書
 (2015年7月1日～2016年6月30日)

【一般会計】				(単位:円)			
支出の部	2015年度予算(a)	2015年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2015年度予算(a)	2015年度決算(b)	予実差異(b-a)
事業費	1,600,000	1,199,651	-400,349	会費収入	2,385,000	2,240,000	-145,000
(北海道支部活動費)	150,000	150,000	0	(個人会員)	1,500,000	1,380,000	-120,000
(関東支部活動費)	150,000	149,519	-481	(学生会員)	65,000	80,000	15,000
(関西支部活動費)	150,000	150,000	0	(法人・団体会員)	820,000	780,000	-40,000
(九州支部活動費)	150,000	150,000	0	事業収入	0	0	0
(大会開催費)	300,000	300,000	0	(研究会収入)	0	0	0
(年報作成費)	500,000	300,132	-199,868	(書籍・年報等販売収入)	0	0	0
(記念事業費)	0	0	0	雑収入	300	252,924	252,624
(役員選挙費)	0	0	0	(受取利息)	300	95	-205
(名簿作成費)	200,000	0	-200,000	(その他の収入)	0	0	0
事務管理費	2,000,000	1,524,349	-475,651	(大会開催費余剰金)	0	0	0
(通信費)	200,000	126,417	-73,583	(北海道支部余剰金)	0	53,450	53,450
(HP管理費)	100,000	38,880	-61,120	(関東支部余剰金)	0	0	0
(役員・委員等旅費補助)	900,000	700,000	-200,000	(関西支部余剰金)	0	110,000	110,000
(業務外部委託費)	400,000	465,653	65,653	(九州支部余剰金)	0	89,379	89,379
(その他運営費)	400,000	193,399	-206,601				
積立金(特別会計へ)	200,000	0	-200,000				
予備費	5,366,374	0	-5,366,374	前年度繰越金	6,781,074	6,781,074	0
次年度繰越金	0	6,549,998	6,549,998				
合計	9,166,374	9,273,998	107,624	合計	9,166,374	9,273,998	107,624
(当該年度事業のみ)	3,800,000	2,724,000	-876,000	(当該年度事業のみ)	2,385,300	2,492,924	107,624

【特別会計(高良記念研究助成)】				(単位:円)			
支出の部	2015年度予算(a)	2015年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2015年度予算(a)	2015年度決算(b)	予実差異(b-a)
2015年度研究助成金	200,000	100,000	-100,000	受取利息	50	90	40
榎本記念賞事業費	100,000	8,726	-91,274	余剰金	0	0	0
振込手数料	1,000	1,512	512	その他	100,000	100,000	0
予備費	505,424	0	-505,424	積立金(一般会計より)	200,000	0	-200,000
次年度繰越金	0	496,226	496,226	前年度繰越金	506,374	506,374	0
合計	806,424	606,464	-199,960	合計	806,424	606,464	-199,960

2015(平成27)年度 貸借対照表兼財産目録(2016.6.30現在)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	7,794,299	(負債の部)	
手持現金(鳥取大)	33,999	流動負債	748,075
手持現金(九州大)	0	未払金	499,933
預金	7,751,412	特)未払金	8,726
福岡銀行(一般会計)	1,101,083	未払費用	128,416
福岡銀行(特別会計)	505,952	特)未払費用	1,000
山崎合同銀行(一般会計)	92,872	前受金	70,000
郵便振替口座	6,051,505	仮受金	40,000
未収入金	162	固定負債	0
立替金	8,726	(純資産の部)	
		剰余金	7,046,224
固定資産	0	(一般会計繰越金)	6,549,998
		(特別会計繰越金)	496,226
資産合計	7,794,299	負債・純資産合計	7,794,299

(注)本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要がありますが、財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

2016(平成28)年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算

一般会計【収入の部】 (単位:円)

大科目	中科目	2016年度予算額	前年度予算額	2015年度実績	2014年度実績	2013年度実績	予算増減
会費収入	小計	2,240,000	2,385,000	2,240,000	2,801,000	2,383,740	-145,000
	個人会員(10,000円)	1,380,000	1,500,000	1,380,000	1,826,000	1,493,920	-120,000
	学生会員(5,000円)	80,000	65,000	80,000	85,000	90,000	15,000
	法人・団体会員(20,000円)	780,000	820,000	780,000	890,000	799,820	-40,000
事業収入	小計	0	0	0	0	0	0
	研究会収入	0	0	0	0	0	0
	書籍・年報等販売収入	0	0	0	0	0	0
雑収入	小計	300	300	252,924	138,561	183,869	0
	受取利息	300	300	95	19	98	0
	その他の収入	0	0	0	0	5,010	0
	大会開催費余剰金	0	0	0	0	0	0
	北海道支部余剰金	0	0	53,450	92,738	44,111	0
	関東支部余剰金	0	0	0	1,274	2,018	0
	関西支部余剰金	0	0	110,000	44,530	47,700	0
	九州支部余剰金	0	0	89,379	0	84,932	0
当期収入合計(A)		2,240,300	2,385,300	2,492,924	2,939,561	2,567,609	-145,000
前期繰越収支差額		6,549,998	6,781,074	6,781,074	6,263,123	5,492,920	-231,076
収入合計(B)		8,790,298	9,166,374	9,273,998	9,202,684	8,060,529	-376,076

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2016年度予算額	前年度予算額	2015年度実績	2014年度実績	2013年度実績	予算増減
事業費	小計	1,550,000	1,600,000	1,199,651	1,371,176	1,281,820	-50,000
	北海道支部活動費	150,000	150,000	150,000	150,000	100,000	0
	関東支部活動費	150,000	150,000	149,519	150,000	100,000	0
	関西支部活動費	150,000	150,000	150,000	150,000	100,000	0
	九州支部活動費	150,000	150,000	150,000	150,000	100,000	0
	大会開催費(大会開催準備費)	300,000	300,000	300,000	300,000	600,000	0
	年報作成費	300,000	500,000	300,132	301,320	281,820	-200,000
	記念事業費	0	0	0	0	0	0
	役員選挙費	150,000	0	0	169,856	0	150,000
	名簿作成費	200,000	200,000	0	0	0	0
事務管理費	小計	2,150,000	2,000,000	1,524,349	1,050,434	415,586	150,000
	通信費(郵送料等)	200,000	200,000	126,417	103,330	156,360	0
	HP管理費	50,000	100,000	38,880	38,880	37,980	-50,000
	役員・委員等旅費補助	700,000	900,000	700,000	400,000	0	-200,000
	業務外部委託費	900,000	400,000	465,653	86,774	0	500,000
	その他運営費	300,000	400,000	193,399	421,450	221,246	-100,000
当期支出小計		3,700,000	3,600,000	2,724,000	2,421,610	1,797,406	100,000
特別会計へ	積立金	200,000	200,000	0	0	100,000	0
予備費	予備費	4,890,298	5,216,374	0	0	0	-326,076
当期支出合計(C)		8,790,298	9,166,374	2,724,000	2,421,610	1,697,406	-376,076
当期収支差額(A)-(C)		-6,549,998	-6,781,074	-231,076	517,951	770,203	231,076
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	6,549,998	6,781,074	6,263,123	0

2016(平成28)年度 日本インターンシップ学会 特別会計 予算

特別会計【収入の部】 (単位:円)

大科目	中科目	2016年度予算額	前年度予算額	2015年度実績	2014年度実績	予算増減
寄付金		0	0	0	0	0
積立金	小計	200,000	200,000	0	0	0
	一般会計より	200,000	200,000	0	0	0
雑収入	小計	100,050	100,050	100,090	60,780	0
	受取利息	50	50	90	92	0
	その他の収入	100,000	100,000	100,000	60,688	0
当期収入合計(A)		300,050	300,050	100,090	60,780	0
前期繰越収支差額		496,226	506,374	506,374	546,242	-10,148
収入合計(B)		796,276	806,424	606,464	607,022	-10,148

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2016年度予算額	前年度予算額	2015年度実績	2014年度実績	予算増減
特別事業費		300,000	300,000	108,726	100,000	0
	高良記念研究助成事業	200,000	200,000	100,000	100,000	0
	榎本記念賞事業費	100,000	100,000	8,726	0	0
事務管理費	小計	1,000	1,000	1,512	648	0
	振込手数料	1,000	1,000	1,512	648	0
	その他	0	0	0	0	0
予備費	予備費	495,276	505,424	0	0	-10,148
当期支出合計(C)		796,276	806,424	110,238	100,648	-10,148
当期収支差額(A)-(C)		-496,226	-506,374	-10,148	-39,868	10,148
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	496,226	506,374	0

広報委員会報告

学会関連情報のウェブサイト掲載について

本学会に寄せられました研究会やセミナー開催案内および教員公募等の情報は、学会ウェブサイトに掲載するほか、随時、メルマガで配信しております。今後も関連情報を積極的にお寄せください。情報掲載につきましては広報委員会 (jsi.prc@gmail.com) までお問合せください。なお、最終的な掲載の可否は広報委員会で検討させていただきますのでご了承願います。

メルマガ配信先アドレスの登録・更新について

現在、学会ウェブサイトには新着情報が掲載され次第、メルマガにて会員の皆様にご案内しております。新たにメルマガ配信を希望される方は送信先アドレスをご登録ください。また、このところ未達アドレスも増えていきますので、アドレスを変更された際には更新をお願いいたします。アドレスの登録・変更は、下記 URL にアクセスし手続きをお願い申し上げます。

URL:<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JSI>
(広報委員会委員長 和田佳子・札幌大谷大学)

企画研究 WG 報告とセミナーのご案内

論文作成セミナーのご案内

九州支部のご尽力で、12月10日(土)14:00~16:30に、セミナー「日々の実践からの研究企画と論文作成に向けて」を九州大学箱崎キャンパス(福岡県)で開催します。これは、九州支部と年報編集委員会と当WGの共催です。

この種のセミナーは、東京(2012年12月)、札幌(2014年12月)、京都(2016年8月、セミナーの模様は本号の関西支部の報告をご参照)で開催された同様のセミナーの第4弾という位置づけになります。12月の開催により、4支部でのセミナーが一巡することになります。

12月のセミナーの案内は、既に学会のホームページに掲載されています。まず、企画研究WGがセミナーの趣旨説明を行った後、見館好隆会員(北九州市立大学)がレクチャー1:「日々の実践をどう研究論文にするか」を約1時間話される予定です。次いで、亀野淳会員(年報編集委員会委員長<北海道大学>)がレクチャー2:『インターンシップ研究年報』への投稿と査読の実際」を話される予定です。残り時間を、講師とフロアとのディスカッションにあてます。従来と同様、忌憚のない意見交換の場となれば幸いです。

です。

このセミナーでは、九州地区に限らず、多くの皆様のご参加を歓迎します。ただ、事前にお申し込みの上ご参加くださるようお願いいたします。

(企画研究WG委員長 安孫子勇一・近畿大学)

2016年度高良記念研究助成

対象者決定(報告)

本学会では、平成19年度から、インターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を図るため、「高良記念研究助成」制度を設け、優れた研究課題への研究助成を行っております。

2016年度(第10回)の研究助成は、2016年4月に応募用紙を各会員に送付し、同年6月10日を締切として募集いたしました。今回は5件の応募がありましたが、審査委員の厳正な審査により、2016年度は川上あき会員(北海道大学 キャリアセンター インターンシップ マネージャー)「公募型と大学経由型インターンシップの比較考察を通じた今後のインターンシップの可能性~企業側・学生側アンケート、インタビューをもとに~」と、坂巻文彩会員(九州大学大学院 人間環境学府・大学院生)「ステージ別の職業統合学習—法学分野に焦点をあてて—」の2件が採択されました。

なお、2017年度(第11回)の研究助成応募期間は2017年4月~6月を予定していますが、詳細につきましては、決定次第会員の皆様にご連絡いたします。是非、多くの応募がなされますよう期待しております。

(高良記念研究助成審査委員長 岡本信弘・博多工業高等学校)

槇本記念賞 WG 報告

槇本記念賞WGでは、昨年の第16回学会大会での表彰後に、選考のあり方や流れ等について議論を重ねて参りました。そして、今年第17回大会時の総会にて新しい運用方法を報告させていただきました。今までの主な変更点としては、表彰が2年に1回となったこと、選定は最も秀逸な事例1例と秀逸な事例4例とすることをはじめ、評価基準、評価項目等を見直しさせていただきました。また、対象となるのは大学・短大、高専、専門・専修学校、中学校・高等学校等の事例で、学会開催当年6月から2年後の学会開催年の5月末迄の2年間に各支部研究会ないし学会大会で発表された事例であることです。

また、日本インターンシップ学会会員であり、学会大会、支部研究会で発表、講演等により披露した事例であることが条件になります。詳細は学会 WEB サイトに掲載しましたのでご確認ください。今後の流れとしては、2017年6月開催予定の理事会にて、各支部から4件の推薦をいただき、8月理事会にて選定、秋に開催される学会第18回大会にて発表、表彰を行う予定です。各支部での秀逸な事例の収集についてご協力いただきたいと思います。

(楨本記念賞 WG 委員長 眞鍋和博・北九州市立大学)

本部支部連絡会報告

2015年度より、各支部研究会等の開催時期・日時の把握と各支部への連絡調整・情報共有を目的として、本支部連絡会が発足いたしました。2016年度は、総会が終わり支部研究会などの情報を共有するためには、どのような形で情報を得て各支部へ流していくかを考える必要があります。各支部とも長期計画を立てることが困難な状況にあつて、支部間の日程調整がなかなかうまくいっていませんが、今後、各支部の情報を迅速に連絡できるよう努めてまいります。

(本部支部連絡会委員長 岡本信弘・博多工業高等学校)

支部活動報告

【北海道支部】

2015年度の第2回支部研究会を開催

北海道支部では2015年5月29日(日)、北海道大学情報教育館にて、2015年度の第2回支部研究会を開催いたしました。支部会員と学会理事の方など、20名の方にご参加いただきました。

今回は「インターンシップにおける課題の解消に向けて」という表題で、シンポジウムを開催いたしました。インターンシップに関わる企業が抱える課題や要望などの「本音」を伺い、教育機関からの意見とともに、産・学双方が納得できるインターンシップの将来に向けた議論を行いました。

シンポジウムでは、受入企業側から、明治安田生命保険相互会社の中原慎二様、大丸藤井株式会社の綿谷美樹様の2名にお越しいただき発表いただきました。また教育機関側からは森谷一経会員(北海道文教大)より「各大学のインターンシップ要望等について」の報告が行われました。

企業からはインターンシップを受け入れるメリットとデメリットについて、人事に関わる両者から優

秀な人材との接触機会となり得るインターンシップ受入の重要性や、採用活動とは異なる「採用ツール」としての展開に期待する、という声がありました。また森谷会員からは大学で行われているインターンシップを受け入れている企業が寄せた、インターンシップ授業への意見が紹介され、「学生の態度・心構え」「服装・マナー」「実施期間・プログラム」「単位認定」などに集約されることが示されました。

発表・報告の後、シンポジストとフロア参加者とのディスカッションを行い、双方の意見の交換を行いました。

(北海道支部広報担当 小林純・札幌国際大学短期大学部)

【関東支部】

2016年度関東支部第1回研究会を開催

7月9日に2016年度関東支部第1回研究会を文化学園大学で開催いたしました。冒頭では、松坂暢浩会員(山形大学小白川キャンパス事業部 准教授)より、「地域連携による効果的な低学年インターンシップの事例および大学生の地元志向の傾向と課題」のテーマで基調講演をいただきました。講演では、地元への就職志向の学生の特徴として、概して環境変化を好まずまた過度に親の期待に応えようとし、また働く意欲が低く将来のキャリアを描けない人物像が浮かび上がるという課題が浮き彫りにされました。

続いて、宮本伸子会員(ものづくり大学 学務部教務・情報課長)に「長期40日インターンシップと学生の将来についての一考察」というテーマで事例のご報告を頂戴しました。全国第7位の参加者率を誇る40日間の長期インターンシップの効果として、履修者の高い満足度、卒業生からの好評価、PBL型インターンシップの社会人基礎力の醸成などが挙げられた一方で、少数ながらも参加者に見られる成果と期待の不一致、社会情勢による受け入れ先企業数の変動、発達障害などを抱えた学生のサポートなどの課題に関するご報告をいただきました。

関東支部の今後の活動としては、新潟大学の全面協力を得て2016年度第2回研究会をガレッソホール新潟で開催いたします。北は東北、西は中部地方まで、幅広い地域の会員の皆様のご期待に添えるよう研究活動を進めてまいります。

(関東支部事務局長 根木良友・玉川大学)

【関西支部】

関西支部第11回研究会を開催

関西支部は、8月10日(水、「山の日」の前日)

に、キャンパスプラザ京都で、第 11 回研究会「インターンシップ教学の現場から」を開催しました。研究発表は、中島美佐穂会員の「高い参加率を維持するインターンシッププログラムの実践内容—大阪経済大学の事例—」と、見目喜重会員の「インターンシップの深化における豊橋創造大学の取り組み課題～事前・事後指導の改善と実習先企業の拡大～」の 2 件でした。2 会員の勤務校での興味深い実践事例の発表を受けて、会場では活発な意見交換が行われました。

夕方開催の上記研究会に先立って、同じ日の午後、企画研究 WG および年報編集委員会との共催により、セミナー「実践を学術研究・論文作成に結びつけるために」を開催しました。古田克利会員（企画研究 WG 副委員長〈関西外国語大学〉）が「日々の実践を学術研究に結びつける視点」について報告した後、亀野淳会員（年報編集委員会委員長〈北海道大学〉）が『インターンシップ研究年報』への投稿と査読の実際—査読の流れと査読のポイント—を報告しました。2 件の実践的な報告を受けて、参加した若手研究者との間で、熱心なフリーディスカッションが 1 時間以上にわたって繰り返されました。

（関西支部支部長 安孫子 勇一・近畿大学）

【九州支部】

2015 年度支部総会・九州支部第 16 回研究会を開催

2016 年 6 月 4 日（土）に九州大学箱崎キャンパスにおいて「2015 年度支部総会」ならびに「九州支部第 16 回研究会」を開催しました。

支部総会においては、まず役員の一部変更、会計報告、2014 年度活動報告が承認され、2015 年度の活動報告に続き、2016 年度の活動報告も承認されました。2016 年度は 3 回の研究会実施が計画され、内容も実践研究型だけでなく、企画研究 WG とのコラボレーション企画として、実践を研究論文にするワークショップの実施が検討されました。

第 16 回研究会では、「就職時期変更によるインターンシップと就職活動への影響」というテーマについて吉本会員から本研究会の問題提起がなされ、㈱リクルートキャリア西日本地域活性営業部・リクナビ副編集長の松田和也氏から採用環境の現状とインターンシップに向けての課題が報告されました。2017 年度採用は、採用選考が 6 月に 2 ヶ月繰り上げになったことで、学生が過密スケジュール状態に陥っていること、リクナビのプレエントリー数は前年比 147%と学生の動きは早期アクションへと変化し

ている現状と問題点が指摘されました。参加者は非会員も含め 16 名でしたが、ホットな話題ということもあり、眞鍋和博会員による参加者相互の意見交換ができる進行のもと、全員から活発な質疑応答がなされ、盛会のうちに研究会を終えることができました。

2016 年度支部総会・九州支部第 17 回研究会を開催

2016 年 10 月 8 日（土）に大博多ビル会議室において「2016 年度支部総会」ならびに「九州支部第 17 回研究会」を開催しました。研究会に先立ち、支部総会では 2015 年度決算報告ならびに 2016 年度予算報告ならびに事業計画が示され、承認が得られました。

続く第 17 回研究会は、九州インターンシップ推進協議会主催の「平成 28 年度インターンシップ受入企業・団体情報交換会・懇談会」と共催で行いました。

最初に「九州インターンシップ推進協議会の現状と今後の展開について」と題し、斉藤拓馬会員から九州インターンシップ推進協議会の概要が説明され、次に「平成 28 年度夏季実践型インターンシップ」に参加した大学生の中で選抜された 4 名によるインターンシップの成果報告会が行われました。それを受け「受入企業・団体による事例紹介」として、うきは市役所での「ちくごインターンシップ」、㈱三好不動産での「通常型インターンシップ」の報告がなされました。これらの報告を受け、吉本圭一会員から「教育改革の時代的背景およびアクティブラーニングとインターンシップの重要性」についての講演がなされ、地域の取組課題として専門コーディネーター等の養成に対する課題が提起されました。最後に、総括として安田麻季代会員（九州インターンシップ推進協議会・コーディネーター）から「受入内容（プロジェクト設計）の検討および情報交換会」が行われました。インターンシップの受入は 7 割以上の企業・団体にとってメリットが大きく、社内の活性化につながっているものの、人手がとられるという課題も指摘されました。閉会後の交流会においても、大学生、企業・団体、教育関係者が相互にタテ・ヨコ・ナナメの交流が活発に行われ、盛会のうちに研究会を終えました。

企画研究 WG・年報編集委員会共催セミナーのご案内

九州支部では、企画研究 WG と年報編集委員会との共催による『日々の実践に基づいた研究企画と論文作成に向けて』のセミナーを下記のとおり開催いた

します。会員が各自の実践活動を相対化して観察する研究活動を行い、その観察を研究論文としてまとめるために、どのような課題があるのか検討していきます。皆様のご参加をお待ちいたしております。

- ・日時：2016年12月10日（土）14:00～16:30
- ・会場：九州大学箱崎キャンパス 文・教育・人環研究等2階会議室
- ・プログラム（予定）

- ①オープニング：「セミナーの趣旨説明」安孫子勇一（企画研究WG委員長・近畿大学）
- ②レクチャー1：「日々の実践をどう研究論文にするか」見館好隆（北九州市立大学）
- ③レクチャー2：『インターシップ研究年報』への投稿と査読の実際」亀野淳（年報編集委員会委員長・北海道大学）

※詳しくは学会ウェブサイトをご覧ください。
（九州支部広報担当 江藤智佐子・久留米大学）

事務局からのお知らせ

2016年度会費納入のお願い

2016年7月にNEWS LETTERNo.2と会費納入の用紙が会員の皆様に送付されていると存じます。2016年度（2016年7月から2017年6月）分の会費未納の方は下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

納入先

郵便口座：02750-1-108419
口座名義（「加入者名」の欄）：
日本インターシップ学会
ゆうちょ銀行 口座番号：
店番：279（当座）108419
口座名義：日本インターシップ学会
*振込にかかる手数料等は各自でご負担ください。

会員情報の変更

会員管理事務局は下記の（株）ガリレオに委託しております。

会員管理事務局より2016年7月に郵送された「重要なお知らせ」の中に会員IDとパスワードが送付されていると存じます。会員情報の変更がある場合は、下記のURLにアクセスしていただき変更の手続きをお願いいたします。ニュースレター・年報・会

費納入用紙等の配布をスムーズに行うためにも、会員情報変更の事象が発生したが起きた場合は速やかに訂正をお願いいたします。

URL:<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JSI>
（パスワードは第三者の目に触れないように大切保管してください。）

会員情報に関しましては下記にお問い合わせください。

（株）ガリレオ学会業務情報化センター内
日本インターシップ学会
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1 第2ユニオンビル4F
電話：03-5981-9824
FAX：03-5981-9852
E-mail：g035-support@ml.gakkai.ne.jp

会員名簿および会員情報の閲覧について

会員情報につきましては、従来の会員名簿に加え、現在会員管理を委託しておりますガリレオのオンラインシステムにより、会員が相互に各人の会員情報を閲覧することができるシステムを計画しております。2016年7月に調査票を送付しましたが、改めて同封の確認用紙をご覧いただき「ご自身の登録データに変更がないか」、「名簿開示項目も確認」をお願いいたします。訂正がある場合は、上記URLの学会会員情報管理ページ上の「会員情報照会・更新」から入っていただき訂正をされるか、ガリレオ学会業務情報化センター内日本インターシップ学会までご連絡ください。

なお、会員の情報検索につきましては後日、学会ホームページで検索方法をお知らせします。

会員訃報

北海道支部会員 徳井美智代殿（北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部 IR ネットワーク推進室 特任准教授）におかれましては、平成28年10月25日、病氣療養中のところ御逝去されました。会員の皆様にお知らせするとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（事務局）

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2016 No. 1

発行日 平成 28 年 11 月 30 日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 和田 佳子

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 岡本 信弘

〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-19-1 九州大学人間環境学研究院
九州大学第三段階教育研究センター内

E-mail: jsi-sec@js-internship.jp 電話&FAX: 092-642-4365

Website: <http://www.js-internship.jp/>